

生活習慣を改めるだけで病気は確実に減る

— モロココミュニティ地域医療推進プロジェクト中間報告(中田資金) —

家庭訪問による生活指導と基礎データ収集/PRRA	衛生に関する基礎知識と技術の指導	巡回診療
竹床に排泄したりツバをはくというような生活習慣を改めるだけで防げる病気(結核や女性に目立つ尿路感染症)が多いため、PIHSスタッフと村の保健ボランティア(従来ヘルスワーカーと表示)がチームを作って家庭訪問をする PRRA という活動に力を入れました。血圧測定、検温などの健康チェックや、今後の活動に不可欠な世帯別基礎データ収集もしました。	フィリピンの公私医療サービスが、貧困層にとって受けにくくなっている厳しい現実を知り、保健ボランティアと住民が協力して村を健康にする知識と技術の研修を実施しました。応急手当や指圧、薬草利用の実習等を内容とするこのセミナーには、対象4地区の男性を含む住民67%が参加しました。	2004年6月、事業地域の一つ河口の村シギルを洪水が襲いました。そのため洪水被災者を対象とする診療を7月に実施しました。家屋や船を失い、狭くて暑い避難所生活が長引いて患者数は198名にのぼりました。うち89%が引き続き治療が必要な患者です。 PIHS代表ナプサ・サラさんの報告(12月)より抜粋(文責・山崎)

以上の事業は3月に終了予定です。引き続きイスラム系住民の村を中心に対象地域を拡大して、「保健ボランティア育成と母子保健プロジェクト」事業を実施する予定です(助成金申請中)。

マラリア撲滅計画進行状況

1月中旬のキアミ(対象3地区:キアミ49戸、シラル24戸、アブガンボルール23戸)における巡回診療で、マラリアについての30分セミナーに続き、蚊帳141枚が配布されました。

子ども4人以上の世帯:特大(Super Extra Size)2枚、又は大(Double Extra Size)との組み合わせ
子ども3人以下の世帯:特大(Super Extra Size)1枚
(特大180^ハリ×130枚、大110^ハリ×11枚:1^ハリ=約2円)

物品及び資金寄附によるご協力

ありがとうございました!

次のステップとして、庭利用の野菜栽培キャンペーンがスタートします。キアミは支援(助成事業)により簡易水道が普及しており、乾季の水遣りが可能な地域です。以前にCMBヘルスプログラムの中で試みましたが、種を購入する資金が足りなくて中断しました。今回、HANDSは寄付物品(夏物衣類など在庫あり)換金による資金で協力する予定です。

栽培予定の野菜:サヤインゲン、トマト、ナス、ウリなど。各種子1袋20^ハリ

* * * * *

メベルちゃんの口コミ裂手術 — CMB医療担当ジョジョによる11月ヘルスプログラム報告より —
2004年9月、口コミ裂のメベルちゃん(キアミ地区・3歳)の手術が聖エリザベス病院で行われました。10数年前にボルールで凶弾に倒れた故カール神父基金からの支援申し出を受けて実現しました。11月の定期健診結果も良好です。カール神父基金は手術時の支援13,000^ハリ、定期健診経費は口コミ裂患者対象のスマイル財団から受けています。この財団のことは最初に患者を連れて行った耳鼻咽喉科で知りました。その他のケースではHANDSの特別支援をお願いすることもあります。

<HANDS定期支援報告/11月>

インフルエンザ・肺炎12名、アメーバ赤痢、脱水症6名、その他合計27名。うち公立病院入院12名、CMBクリニック14名、私立病院入院1名。19日のソフ村巡回診療は歯科を含め179名受診。